

# 募金収入・援助金支出報告

期間：2015年4月1日～2016年9月30日

## ■ 2015年3月31日現在繰越金 (円)

カリタスジャパンに直接送られた募金の繰越金	392,177,471
国際カリタス経由でカリタスジャパンに送られた募金の繰越金	769,939
合 計	392,947,410

## ■ 募金収入 (円)

	2015年4月～ 2016年3月	2016年4～9月
カリタスジャパンに直接送られた募金	41,289,909	5,274,667
国際カリタス経由でカリタスジャパンに送られた募金	215,420,986	224,574,279
合 計	256,710,895	229,848,946

## ■ 援助金支出内訳 (円)

	2015年4月～ 2016年3月	2016年4～9月
<b>【プロジェクト直接費】</b>		
ベース活動全般（傾聴・イベントなど）		
仙台教区サポートセンター	66,422,120	31,403,975
石巻ベース・米川ベース・福島デスク		
カリタス釜石	20,137,492	12,443,238
大槌ベース	24,372,804	22,172,590
大船渡ベース	7,059,169	6,512,190
カトリック東京ボランティアセンター・原町ベース	32,360,992	20,332,339
いわきサポートステーション	5,979,114	8,930,152
障がい者自立センターかまいし	4,200,000	
ベース合計	160,531,691	101,794,484
その他被災者支援プロジェクト	250,000	2,257,848
原町新ベース建設（着工時分30%）		29,970,000
大槌町こどもセンター		30,000,000
プロジェクト直接費の小計	160,781,691	164,022,332
<b>【プロジェクト間接費】</b>		
モニタリングと評価	177,599	104,872
広報費（活動報告書）	165,240	
会計監査費	1,296,000	391,160
プロジェクト間接費の小計	1,638,839	496,032
合 計	162,420,530	164,518,364

カリタスジャパン東日本大震災復興支援活動報告 2017年3月

2017年3月11日 発行 ©カトリック中央協議会 2017年  
 編集 カリタスジャパン 発行 カトリック中央協議会  
 〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10  
 日本カトリック会館内 電話 03-5632-4411  
 カリタスジャパン 電話 03-5632-4439（直通）  
 E-mail info@caritas.jp URL http://www.caritas.jp/

印刷 双文社印刷



# カリタス ジャパン

## 東日本大震災復興支援活動報告

2017年3月

### 東日本大震災の発生から6年を迎えるにあたって

昨年2016年、日本では再び大きな地震が発生しました。熊本で4月に発生した地震は、あらためて自然の持つ力の強大さを、わたしたちに思い起こさせました。また東日本大震災の余震とされる大きな揺れも、東北で幾度か観測されました。

東北における巨大な地震と津波が発生した2011年3月11日から6年となります。あらためてこの大災害で生命を落とされた方々と、その後の復興の過程で亡くなられた方々の永遠の安息をお祈り申し上げます。

繰り返し発生する地震が、東北の大震災が過去の記憶となっているのではなく、まさしく現在進行形の災害であることを、あらためて自覚させます。被災地において取り組まなくてはならないことは、まだまだ多くあるのです。

復興の歩みはゆっくりと前進していますが、原子力発電所の事故の影響が残る福島県内では、明確な将来図を描くためにまだ長い時間が必要だと感じます。また復興庁の統計によれば、昨年12月末の段階で被災地からの避難生活を送っている方々の総数は未だ13万人を超えており、多くの方にとって普通の生活はまだ実現できていません。

カリタスジャパンは、全国のカトリック教会が被災地で行う復興支援活動を、国内外から寄せられた募金を基にして、仙台教区との協力の下で支えてきました。復興支援の現場からは、さらに長期間の支援活動が要請されています。その要請に応じて日本のカトリック教会は、先日の司教総会において、復興支援活動を2021年3月末まで継続することを決定しました。カリタスジャパンはその活動を支え続けてまいります。

カリタスジャパンは地元で根ざして存在するカトリック教会を基盤としております。ですから、カトリック教会のあるところにはどこにでも、カリタスの活動が存在しています。被災地におられる皆様といつまでもともに歩み続けるのが、わたしたちカリタスの活動です。

復興に取り組まれている東北の方々が、一日も早く普通の生活を取り戻すことが出来るように、カリタスジャパンは活動を続けてまいります。

これまでのカリタスジャパンの活動への多くの方々のご理解とご協力に感謝申し上げますとともに、これからのご支援をお願いしつつ、大震災6年目の報告書をお届けします。

カリタスジャパン責任司教 タルチシオ



カリタスジャパンは、カトリック仙台教区が中心となり日本の全教会が協力して実施する東日本大震災復興支援活動を支援しています

## 復興支援活動

復興の進捗に差はあるものの、現地では、仮設住宅から復興公営住宅への入居も進んできました。そのような中、カリタスのベースは、復興住宅での新しいコミュニティ作りのお手伝い、また、サロンやイベントなどを通して、仮設住宅に残っている方々のサポートなどを行いました。復興住宅への入居が進む中、仮設住宅は集約されていき、そのたびに転居を繰り返さざるを得ない方も多くおられます。

カリタスは、そのような住民の方々の、長引く避難生活の疲れや将来への不安に、変わらず寄り添い続けています。

また、仮設住宅でも復興住宅入居後も懸念される、自死や孤独死、生活不活発病などの防止に関しても、行政と協力して取り組んでいます。



復興住宅におけるコミュニティ作りのための住民交流会

## 緊急・復興支援活動評価

これまでの活動の効果などを見極め、得られた教訓を今後の活動へと活かしていくために、活動評価を行っています。その一環として、原町ベースで「参加型評価」を行いました（2016年9月9～17日）。

結果、原町ベースのミッションにも謳われている「現地のカウンターパート（復興支援に取り組む団体）への支援」が有効だったこと、今後の活動継続のためのニーズも大きいことなどが分かりました。

スタッフからも「評価の過程で、活動や互いの理解が深まった」との声があり、評価自体が有意義であったことも確認できました。



原町ベースでの活動評価



復興計画に沿って建設が進められた復興公営住宅（被災者向けの公営住宅）は、計画の約3万戸に対して73%が完成し（復興庁2016年11月現在）、仮設住宅から復興公営住宅への引越しが進みました。しかし、依然として全国で約13.1万人が避難生活をおくっており、その内約8.2万人（県内避難4.2万人、県外避難4.0万人）が福島県の避難者で、大きな割合を占めています（復興庁2016年12月現在）。被災地に設置された8カ所の支援活動拠点「カリタスペース」では、引続きスタッフとボランティアが被災された方々に寄り添い、生活再建のための支援を行っています。

## 福島県状況

2016年7月に南相馬市内の「避難指示解除準備区域」が避難指示解除となりました。これまでに住民の約1割程度が帰還していますが、帰還のための除染作業が進めば進むほど、それだけ放射能汚染物質の入った黒い袋が積み、居住区域の隣に「仮・仮置き場」がどんどん広がってきています。

2017年3月にはさらに避難指示解除となる区域が増え、「避難指示を受ける住民が約8万1千人から約2万5千人に減少となる」と新聞は報じていますが、「帰還困難区域」「居住制限区域」の解除時期ははまだ明らかにされていません。数字には見えてこない「人々の生活の営みの復興・復興」には程遠いものがあります。

そういった中で、カリタスペースのベースはボランティアとともに、仮設住宅での生活を続ける方々の心に寄り添い、また、住民の方々とともに家屋内外の片付けをすることで、先の見えない状況の中であって、住民の方々の一歩でも前に進もうという気持ちを後押ししています。



仮設住宅集会所での活動に参加



開所式を迎えたカリタス南相馬

原町ベースからカリタス南相馬へ  
福島県南相馬市原町区にある「カリタス原町ベース」（東京教区が運営）の移転先となる、新たな活動拠点が原町教会の敷地内に完成しました。2016年12月17日開所式が執り行われ、活動団体の名称も「カリタス南相馬」に変更されました。